

# 木材加工施設等の復旧

## — 早急な復旧資材の供給に向けて —

### 1 木材産業関係の被害状況

東北地方は森林面積も大きく木材の一大供給地。今般の大震災で木材加工流通施設等も青森県から茨城県にかけて被害が発生しました。

特に岩手県、宮城県の沿岸には大型の合板工場や製材工場が多数存在しており、その被害の状況とその影響が懸念されました。

被害は、90箇所、507億円に及びました。(6月末現在)

一方、仮設住宅や一部損壊住宅の補修などに必要な資材の確保が求められ、木材製品の供給は緊急の課題となっています。そのため、木材加工・流通施設の早急な復旧に向けて、平成23年度第1次補正予算にその対策を盛り込みました。

### 2

#### 平成23年度第1次補正予算 (木材供給等緊急対策)の概要

第1次補正予算のうち「木

材供給等緊急対策」として5、924百万円が計上され、その事業内容は次のとおりです。

#### (1) 木材加工流通施設等の

##### 廃棄・復旧・整備

被災した木材加工流通施設等について、早期に稼働可能な施設の廃棄・復旧・整備と、ガレキ処理の円滑化等に資する木材破砕機の整備に対して支援を行います。  
(補助率1/2)

#### (2) 間伐材等の流通コスト支援

##### ① 流通コスト支援

復旧に必要な資材用の木材で、被災工場の在庫原木や被災工場に出荷していた地域の原木等を、非被災工場等で受け入れる場合の流通に対して、距離に応じて支援を行います。  
(補助率…定額)

##### ② 流出木材の処理コスト支援

震災により港湾等に流出した木材の回収を、所有者等が行う場

合に支援を行います。  
(補助率1/2)

今回の対策では、早期の復旧を行うため、加工施設の復旧・整備だけでなく、被災した機械等の処

理、廃棄も対象にしました。

また、交付決定前に着手することや最大4月まで遡って事業対象とすることができるようになりました。

既に被災工場等のガレキ処理等を実施しており、加工機械等の復旧に向け事業が展開されています。

表1 東日本大震災に伴う木材加工・流通施設の被害状況

県別業種別の被害額 (平成23年6月末)

(単位:億円)

区分	製材	合板	単板	チップ	その他	計
	(箇所数)	(箇所数)	(箇所数)	(箇所数)	(箇所数)	(箇所数)
青森県	2				0	2
	(2)			(1)	(1)	(4)
岩手県	14	58	58	6	1	137
	(18)	(3)	(2)	(3)	(6)	(32)
宮城県	56	299	3	2	0	360
	(18)	(3)	(1)	(3)	(5)	(30)
福島県	5				0	5
	(13)				(3)	(16)
茨城県	2				0	2
	(1)				(4)	(5)
その他	0				0	0
	(2)				(1)	(3)
計	79	357	61	8	1	507
	(54)	(6)	(3)	(7)	(20)	(90)

注)その他は集成材、防腐加工、流通施設など。



写真1 宮城県内の製材工場の乾燥施設の復旧状況



写真2 宮城県内の合板工場の建屋の復旧状況



写真3 宮城県内の合板工場の内部の状況



写真4 岩手県内の合板工場のガレキ発生と整理状況



写真5 岩手県内の合板工場の内部の復旧状況



表2 木材供給等緊急対策整備補助の事業予定の実施主体一覧

都道府県	事業主体	メニュー
岩手県	北星株式会社	木材加工流通施設整備
	ホクヨープライウッド株式会社	木材加工流通施設整備
	有限会社マルヒ製材	木材加工流通施設整備
	株式会社ミナミ	バイオマス関連施設整備
	北星株式会社	バイオマス関連施設整備
宮城県	セイホク株式会社	木材加工流通施設整備
	西北プライウッド	木材加工流通施設整備
	石巻合板工業株式会社	木材加工流通施設整備
	株式会社山大	木材加工流通施設整備
	丸平木材株式会社	木材加工流通施設整備
	株式会社丸中材木店	木材加工流通施設整備
	株式会社幸田屋商店	木材加工流通施設整備
	山孝木材株式会社	木材加工流通施設整備
	有限会社石垣林業	バイオマス関連施設整備
	守屋木材株式会社	バイオマス関連施設整備
	セイホク株式会社	バイオマス関連施設整備
	日本製紙木材株式会社	バイオマス関連施設整備
	山形県	株式会社クリーンシステム
株式会社ミツヤマグリーンプロジェクト		バイオマス関連施設整備
福島県	千葉製材所	バイオマス関連施設整備
	株式会社伏見材木店	バイオマス関連施設整備

### 3 木材供給等緊急対策の事業実施と木材加工流通施設の復旧状況

林野庁では、予算成立後速やかに被災県等に対し要望調査を行い、施設整備関係の項目は、予定箇所を決定しており、木材加工流通施設11箇所、バイオマス関連施設整備10箇所、合計21箇所となっています。（箇所別一

覧は表2のとおり。）

被害が一部浸水程度の工場では、泥処理や原料等の散乱の片付けを行い、加工機械等の修理部品の調達や機械の調整等をほぼ済ませ、加工ラインの稼働がまもなく開始される段階となっています（写真1～5）。また、工場内施設の損壊やガレキの流入した工場でも、ガレキ処理が終了し、発注した加工

機械の納入・据え付け・稼働開始を待つばかりの状況です。第1次補正予算の迅速な執行によって、復旧資材の早期の供給開始に向け着実に木材加工流通施設等の復旧が進んでいます。今後の復旧・復興にあたっては、再生可能な資源である木材の特性を活かし、被災地の復旧・復興のステージに積極的に木材

を活用していくことが重要ですが、そのためには、信頼できる木材製品の安定供給できる体制整備を進めていかなければなりません。新たな木質社会への転換を進めるべく、今後とも早期の復旧・復興が図られるよう必要な対策に取り組んでいきます。